

図書館の「夢育」支援 ～学校と地域の結び付きに向けて～

住友 加奈子
岡山県立図書館

1. はじめに

岡山県立図書館は主題別6部門制を取っており、参考資料、人文科学資料、児童資料、社会科学資料、自然科学・産業資料、郷土資料の6つの部門に分けて職員を配し、担当主題に関する資料の収集・提供・相談などのサービスにあたっている。これまで来館者サービスの向上に努めてきた結果、来館者数、個人貸出冊数ともに高い数値を維持してきた。¹しかし、現在いずれの数値も減少傾向にあり、改めて図書館は地域のために何ができるか、また図書館の存在意義をどのように捉えるか、どうすればそれを県民に実感してもらえるか考える必要がある。

本レポートでは、第22回ビジネス・ライブラリアン講習会の受講内容を踏まえ、ビジネス支援の観点を取り入れた教育活動支援事業について検討したい。

2. 岡山県の現状と課題

本県は、最古の庶民のための公立学校とされる閑谷学校の創立を始めとして、伝統的に教育を重んじる気風があるとされてきた。昭和30年代に行われた「全国学力調査」ではすべての年で全国上位に位置していたことに加え、大学進学率も高く、技術系の大学、短大、工業系の高等学校の設置数も西日本有数の多さを誇っている。²

しかし、平成19年(2007)に約40年ぶりとなる「全国学力・学習状況調査」が実施されると、小学校、中学校ともに全国平均を下回る結果となり、厳しい現実が明らかとなった。これ以降本県では「教育県岡山の復活」に向けた取り組みが重要な課題となっており、中でも2021年に策定された「第3次岡山県教育振興基本計画」³に基づき、岡山県教育委員会が推進している教育が「夢育」である。岡山県教育委員会によると、「夢育」とは「一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育のこと」とされており、非認知能力の向上を大きな目標としている。⁴

高校においては「自分にとって関わりの深い探求すべき課題を見だし、その解決に向けた取り組みを重ねる」PBL (Project Based Learning) が特に重要とされており、2022年には岡山県教育委員会により『PBLガイドブック (高校版)』が作成された。⁵

また、同年12月には「高校生探求フォーラム2022」が開催された。⁶ このイベントは、県立高校が各校での探究活動の成果をポスターセッションやプレゼンテーションで発表し、他校と取り組みを共有することで、高校生1人1人の夢を育む契機とすることを目的としており、今回で3回目の開催となった。当館は今回初めて参加し、図書館の活用法

についてのチラシの配布やポスターの掲示などを行った。

このイベントで生徒たちの発表を聞いて感じたことは2つある。まず1つ目は、ニーズに合わせたサービスを提供することの必要性である。『PBLガイドブック』の「情報の収集」の章では、「情報は、一次情報から収集することが大切」とある。⁷ 本書では生徒が自ら社会に関わっていく経験を重視しており、生徒たちの発表内容からもそれが感じられた。コロナ禍を経て教育現場では急速にICT化が進み、1人1台端末が実現し、図書館の教育活動への関わり方も大きな転換を迫られている。従来の図書を用いた支援はもちろん継続すべきであるが、この点を無視しては、図書館の影は薄くなってしまいうように感じた。

2つ目は、PBLとビジネスプラン作成との共通点の多さである。生徒たちは活動を通して、自分を取り巻く社会や地域の課題を知り、解決策を模索し、内容によっては経費の計算なども行う。これはビジネスプラン作成と非常に似通ったプロセスである。

図書館が学校における課題解決の流れから取り残されてしまうのではないかという危機感を覚える中、このような共通点を感じたことは、その後受講を予定していたビジネス・ライブラリアン講習会に向けて、何かヒントが得られるのではないかという希望を感じるものであった。

3. 事業の概要

『PBLガイドブック』は、主に教員を対象にPBLの考え方や進め方について書かれており、実際の教育現場でも、基本的にこの記載内容に沿って実施されるものと思われる。そのため提案する事業はこの内容を踏まえつつ、図書館を利用することによって学習の効果を深め、生徒・教員を支援することを目指す。

前述のように、『PBLガイドブック』では一次情報の収集が重要とされている。しかしアンケートやインタビューを行うためには、まず地域の課題、特色、取り組みなどについて知らなければならない。そのため本事業では、図書を用いた支援に加え、県立図書館が仲介をする形で、高校と県内事業者や県庁各課といった地域課題に取り組む当事者とのマッチングの役割を果たすことを目的の一つとする。

また、進学校や実業校だけでなく、県立図書館への来館が困難な遠方の学校や小規模校においても同様にPBLに注力しており、学校の魅力化や郷土愛の醸成にもつながっている。このため本事業においては、県立図書館は情報の収集、整理、提供、そして成果の発信を行い、実際の活動は基本的に学校で行うものとする。

これらのことから、事業内容を以下の2つとする。

- (1) 県内事業者や地域情報についての資料のセット貸出
- (2) PBLのプロセスに合わせた出張講座

4. 事業の具体案

連携の取りやすさを鑑み、本事業はまず県立高校関係者（生徒・教員・学校司書）を対象として開始し、段階的に拡大するものとする。

具体的な取り組みとしては以下のように行う。

（１）県内事業者や地域情報についての資料のセット貸出

まず県立図書館において、県内事業者、県庁各課から企業案内・パンフレット・パネル等の資料収集を行う。県内事業者の企業案内やパンフレットなどは、これまでに行ってきたビジネス支援イベントの連携先である岡山県産業振興財団やおかやまインキュベータ協議会などを通して収集を図る。

次に、当館では年間を通して県庁各課やその他関連機関との連携展示を行っており、その際借り受けるパンフレットやパネルには、例えば林政課であれば林業就業者の育成、子ども未来課であれば地域子育て支援拠点の利用促進など、県内のあらゆる分野の特色や課題が集約されていると言える。

これらを県立図書館が取りまとめて整理し、学校からの要望に合わせて関連図書とともに貸出することで、生徒が地域の魅力や課題を知る機会を提供することができる。

同時に、岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会、司書部会、学校図書館活用教育研究委員会などにヒアリングを行いながら、PBLに役立つセット貸出用図書を新たに選定・購入する。収集した資料の搬送には、すでに当館で実施している学校図書館への資料搬送サービスを利用する。

（２）PBLのプロセスに合わせた出張講座

次に、出張講座の内容設定にあたっては、前述の学校図書館部会などと情報交換を行い、実際に学校で行われる活動内容やスケジュールを踏まえて検討する。学校では年間を通して取り組まれているため、講座内容も課題設定編、情報収集編、まとめ・表現編など、PBLのプロセスに合わせて選択できるよう複数に分けて設定する。

情報収集編では、ワンタイムパスワードを用いて当館契約データベースの利用体験を行うことも考えられるほか、ビジネス支援イベントや連携展示などによって得た人脈を通して、研究課題に応じた人材の紹介や講師としての派遣を行うこと、日本政策金融公庫と連携して「高校生ビジネスプラン作成講座」を学校や地域の市町村立図書館を会場に行うことも考えられる。

事業の広報には、文書、ホームページ、県職員向けポータルサイトでの発信に加えて、教員研修でのPRが考えられる。当館ではこれまでも教員の初任者研修で利用者登録や簡単な利用案内を行ってきたが、教職員課や総合教育センターと連携し、初任者研修や経験年数別研修講座などを通してより詳しく事業の紹介を行う。

また、「高校生探求フォーラム」にも継続して参加し、本事業の広報と利用実績の紹介

を行う。前述した高等学校教育研究会学校図書館部会では、学校図書館を活用した探究学習を推進するために様々な取り組みを行っており、ホームページでは「探究×図書館」として、授業で役立つワークシートや動画などの紹介を行っている。⁸ 学校図書館は、生徒・教員に対して日常的に支援活動を行う存在であり、学校図書館を支援することは県立図書館の重要な役割の一つである。今年度は、イベント参加の際に県立図書館のものと合わせてチラシの配布やポスターの掲示を行うに留まったが、事例や作成資料を共有するなど、今後一層連携を強化し、参加者に広く図書館活用をアピールする場としたい。

事業実施の第一歩としては、4校連携講座「地域創生学」での出張講座が考えられる。これは県北部に位置する津山市内の県立高校4校が連携し、地域課題の解決策を探る講座である。本県では2010年頃から、地域と連携して地域が抱える課題解決を行うPBLが「地域学」という名称で行われており、現在では全県的に実施されている。⁹ 「地域創生学」もその流れを汲むものであり、従来のサービスの届きにくい県北で行われるという点、様々な校種（普通科、工業、商業）の4校に一度に広報できるという点で、その後の事業拡大に向けた足掛かりにすることができると思われる。

事業実施後は、利用状況や成果をSNS、ホームページ、県職員向けポータルサイトで発信する。また、それらをまとめたペーパーを発行し連携先にも配布することで、生徒たちのPBLの成果をフィードバックする。さらに、県立図書館ティーンズコーナーでの展示を行うことで、広く県民に向けても紹介する。

5. 事業の目的・効果

PBLでは、生徒たちが授業で学んだことを自身の現在および将来の在り方・生き方に結び付けて考え、「意欲」や「コミュニケーション能力」などの非認知能力を身に付けていくことを目的としている。加えて、地域の現状、魅力、課題について知ることは、これからの地域の発展を担う人材の育成にもつながる。

また、学校でPBLを行う場合、生徒が興味のある分野について担当教員が必ずしも熟知しているとは限らない。図書館が豊富な資料でバックアップすることによって、生徒の学ぶ意欲に応え、事業終了後も生徒1人1人へのフォローアップを行うことが可能となる。

次に、本県県立高校の学校司書は、学校の規模などによって正規職員が配置されている所と非正規職員が配置されている所がある。さらに非正規職員の場合は事務室と兼任し、学校図書館での勤務が1日のうち半日程度に留まる場合もある。このような勤務形態の場合、学校図書館業務に携わることができる時間が大きく異なるため、正規職員が配置されている学校図書館と同じサービスを提供することは困難であると思われる。県立図書館が支援することで、非正規職員が配置されている学校においても学校図書館を活用したPBLが実施しやすくなり、均等な学習機会の提供にもつながる。

そして、当館で令和3年(2021)度実施した来館者アンケート調査によると、来館者の8割以上は所在地である岡山市の居住者であった。¹⁰ 遠方へのサービスが行き届きにくいことは県立図書館としての大きな課題であり、学校へ直接出向いて事業を実施することは、潜在的な利用者の掘り起こしにもつながるものと思われる。

最後に、当館の年間70万人以上の来館者数は、情報の発信という点において大きな強みになると考える。県の魅力と課題、そしてそれらに対する高校生のPBLの取り組みと成果を知ってもらうことは、県民が改めて県の現状と未来について考えるきっかけづくりにもなるのではないだろうか。また、課題解決のスキルは、今後の不確かで予測困難な社会においてはどんな人にとっても必要となるものである。将来的には、展示やイベント、研修などを通して一般利用者や市町村立図書館に、また岡山県図書館協会や岡山県学校図書館協議会などのネットワークを通して小中学校に向けても、本事業での課題解決スキル獲得のノウハウを広げていきたい。

6. スケジュール

実施時期	内容
前年度	学校図書館部会等へのヒアリング、アンケート 連携先との調整・資料の収集 セット貸出用図書の選定・購入
実施年度 4月	教職員研修での広報 学校への広報 セット貸出・出張講座受付開始
7月～	4校連携講座「地域創生学」出張講座
12月	事業についての振り返り展示 ペーパーの発行 「高校生探求フォーラム」参加

7. 必要経費

合計:¥2,041,000

実施時期	セット貸出	出張講座
前年度	需用費（資料整備費）： ¥2,000×50冊×10セット=¥1,000,000 需用費（消耗品）：¥50,000	
実施年度	役務費（搬送費用）：	報償費：¥11,500×50人=¥575,000

	¥820×2 便×3 箱×50 回=¥246,000	旅費：¥3,300×50 人= ¥ 165,000 需用費（消耗品）：¥50,000
計	¥1,296,000	¥745,000

8. おわりに

『PBL ガイドブック』において、「情報の収集」の章にも図書館の記述はない。本講習会の中で、図書館が支援の輪の中に入っているか、頼りにする相手として当然思い浮かぶかが重要であるというお話があったが、力不足を痛感するところであった。

今年度初めて課題解決支援を担当する班に異動し、ビジネス支援や教育活動支援、行政支援など目の前の業務に取り組むことに精一杯になっていた。徐々に図書館以外の方々の関わりが増える中で感じたことは、県の取り組みに対する自身の知識不足であった。社会が複雑化し、新たな課題が次々と生まれている現在、聞かれたら答えるという態度では支援の輪に入ることはできない。学校も企業も行政も、根本的な部分では同じものを目指していると感じる。図書館がそれらの間を有機的につなぐことで、地域の課題解決と活性化に貢献できるものとする。本講習会を通して当館の課題の多さを実感したが、それはこれから先まだまだできることがあるという可能性を感じることの連続でもあった。今後も県の取り組みや地域のニーズの把握に努め、自ら出向く姿勢を忘れず、研鑽に努めていきたい。

最後に、本講習会においてお世話になった講師の方々、共に学んだ参加者の皆様に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

-
- 1 「岡山県立図書館第4次中期サービス目標」岡山県立図書館,2021
<https://www.libnet.pref.okayama.jp/tosyokan/mokuhyou/service4/sansanplan4.pdf>
 - 2 「「教育県岡山」の成り立ちとこれから ～新しい教育を岡山から～」岡山県教育委員会, 2021
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/729744_6644877_misc.pdf
 - 3 「第3次岡山県教育振興基本計画」岡山県教育委員会, 2021
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/700325_6255181_misc.pdf
 - 4 「夢育（詳細版）」岡山県教育委員会教育政策課
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/839470_7953513_misc.pdf
 - 5 『PBL ガイドブック（高校版）』岡山県教育委員会, 2022
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/778524_7237440_misc.pdf
 - 6 高校生探求フォーラム 2022

<https://www.okayama-tankyu.jp/>

⁷ 前掲注 4, p.8

⁸ 岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会

<https://okayama-hslibrary.com/>

⁹ 熊谷慎之輔『岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成』福村出版, 2023

¹⁰ 『年報 令和3年度』岡山県立図書館, 2022, p.64

https://www.libnet.pref.okayama.jp/tosyokan/toukei/nenpou/r3_nenpou.pdf